

Funehiki High School News vol.104

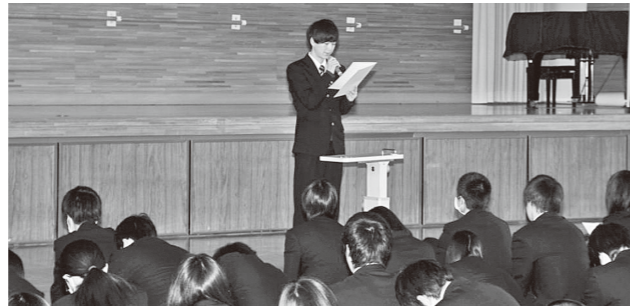
◆卒業証書授与式

3月1日、第66回卒業証書授与式が挙行政され、152人の生徒が船引高校を卒業しました。卒業証書を佐久間雄大さん（船引中出身）が代表で受け取り、たくさんの来賓の方々からご祝辞をいただきました。ありがとうございました。

在校生代表の送辞では、生徒会長の吉田公幸さん（船引中出身）が先輩への感謝の気持ちを述べ、卒業生代表の答辞では、三浦早人さん（移中出身）が「卒業後もチーム船引の気持ちを地域に広めたい」と抱負を述べました。卒業生のさらなる活躍を期待しています。



◆進路報告会



2月12日、進路先が内定した3年生から、1・2年生への進路報告会が行われました。進学内定者4人から、早め早めの対応が大切であることや、志望校に合わせて受験勉強や面接練習が必要ながことが報告されました。また、就職内定者4人は、服装、礼儀、言葉遣いなど当たり前のことができるようにすることを、そのうち1人は、就職して働きながら短期大学に通うことができるシステムについて、後輩のために分かりやすい言葉で伝えていました。1・2年生は、時折メモを取りながら真剣な表情で聴き、就職・進学を問わず学習が重要であることも実感していたようです。

◆模擬選挙が行われました

3月4日、福島県選挙管理委員会と田村市選挙管理委員会の協力のもと、模擬選挙「未来の知事選」が行われました。事前に選挙に関する基礎学習をしていた2年生131人が、体育館において、候補者役の福島大学生4人による政見放送を興味深く聴きました（写真右上）。その後、校内に設けられた本格的な投票所で一票を投じました（写真右下）。投票事務に従事した生徒9人は、3月2日に福島県議会を傍聴しており、政治や選挙に対する意識を高めていました。

●県議会を傍聴し、投票事務にも携わった郡司浩輝さん（滝根中出身）の感想「県議会では、質問者の持ち時間が決まっていることを初めて知った。質問に対しては知事が最初に答え、それから担当分野の職員が答えるという順番があることも分かった。ピリピリと緊張感が漂うイメージの議会だが、和やかな場面や、時に笑い声もあり、自分が思っていたものとはまったく違っていた。模擬選挙では、投票立会人という仕事を体験、投票手続きなどに不正がないか監視する重要な役割だった。これらの活動から、魅力的な福島にするために、一人一人が政治や選挙に真剣に取り組む大切さを知った。」



◆校長ブログ更新中です 本校ホームページにおいて、校長ブログ「今日の船高」を日々更新しています。授業風景、行事や部活動に積極的に参加する姿、そして何気ない生徒との日常を、写真と共にアップしています。ぜひご覧ください。アドレスは下に記してあります。



福島県立船引高等学校 Tel...0247-82-1511 Fax...0247-82-5233
HP...<http://www.funehiki-h.fks.ed.jp> mail...school@funehiki-h.fks.ed.jp



4月の花

Brandon Terpsma
ブランデン・タープスマさん
(アメリカ合衆国
ネブラスカ州出身)

海	を	越	え	て
英	語			
	指	導	助	手
ペ	ン	リ	レ	ー
			No.	34

アメリカの4月は、とてもすばらしい月です。季節が春へと移り、鳥たちが戻って来て、花々も咲く準備を始めます。4月は僕の大好きな月の1つですが、それは野球シーズンが始まるからでもあります。4月の第1週は、アメリカ中でメジャーリーグの最初の試合があるのです。

4月にはイースター（キリストの復活祭）もあります。イースターはキリスト教の祝日で、もちろんアメリカでも行われています。イースターは基本的に「春分の日後の最初の満月の次の日曜日」に祝されるので、年によって日付が変わる「移動祝日」です。だから、3月になることもあります。4月になることのほうが多いのです。人々は教会へ行き、その後はたいてい家族や友人たちとごちそうを食べます。

皆さんは「イースター・エッグ・ハント」を知っていますか？ イースターには、彩色や装飾が施されたゆで卵（＝イースター・エッグ）を食べる習俗があります。そして、国や地域によっては、庭や室内に隠されたイースター・エッグを子どもたちが探す遊びが行われています。

僕の故郷もそうでした。僕の家はイースター・エッグは、ゆで卵ではありませんでしたが、プラスチックの卵形の容器にチョコレートなどの甘いお菓子が入れられていました。隠されているそのエッグを、子どもたちが探すのです。僕の家族は毎年、祖父母の農場でイースター・エッグ・ハントをしました。祖父母の農場はとても広かったので、卵を見つけるのに数時間かかったこともあり。卵の中のお菓子は、見つけた人へのご褒美です。毎年、とても楽しんでイースター・エッグを探したことを思い出します。



4月には「アース・デー（地球の日）」もあります。1969年、ユネスコの会議で、地球環境について考える記念日を設けようと提案され、その後、この理念は少しずつ浸透していきました。そして2009年、国連総会で正式に4月22日をアース・デーとすることが採択され、翌2010年から実施されています。

この日は、環境汚染に対する住民の認識を高めたり、リサイクル促進の機会にしたりする日です。僕の故郷では、アース・デーを祝うコンサートやイベントが催されます。また、いろいろな種類の自然食品や、地元で採れた果物や野菜を使った飲食物、オーガニック・フードやオーガニック・スムージーを飲んだりできます。植林競争もあり

ます。各参加チームができるだけ早く効果的に、どれだけチームワークよく植林できるかを競うのです。地域の絆を深めたり、地元の農業経営者を援助したりする良い機会なので、僕の家族は毎年そういったイベントに参加しました。

僕の出身のネブラスカ州には、「沈床園」（周囲より一段低く作られ、回りにテラスのある幾何学的な洋式庭園）もあります。あらゆる種類の美しい花々や灌木が植えられている、100エーカー（約40万5,000㎡）もの広大な美しい庭園です。冬の間、花々は見えませんが、4月半ばには生命がよみがえり、言葉で表現できないほどに美しくなります。

春に咲く花々が、今年もまた僕に、生命のみずみずしさ、尊さを改めて感じさせてくれます。